

# 摂食・嚥下外来5年間の実績 と地域連携

新横浜リハビリテーション病院  
寺見雅子、松宮英彦

# 目的

摂食・嚥下外来の基本方針に対する評価を行う。

## 【摂食・嚥下外来の基本方針】

- ①病院の設備と技術を活用し、地域医療を後方よりサポートする。
- ②患者の抱え込みをせず、嚥下機能評価や指導を中心としたコンサルテーション機能を充実させる。
- ③患者や家族のみならず、同伴された訪問看護師、訪問ST、ケアスタッフ、ケアマネジャーなどと双方向の連携を積極的に行う。

# 摂食・嚥下外来の診療内容（初診）

## リハ科専門医 による診察

- ・ 紹介状および受診目的の確認
- ・ 問診、視診、触診、頸部および胸部聴診
- ・ スクリーニングテスト（RSST、MWST）など

## 検査

- ・ 嚥下機能検査：VE（必要時）
- ・ 血液検査、胸部X-P、頭部CT（必要時）など

## 生活状況の 確認

- ・ バイタルサインおよびSpO<sub>2</sub>の測定、吸引の有無
- ・ 栄養および水分の摂取方法と摂取量
- ・ 体重、身長、BMI、排泄状況、活動状況など

# 摂食・嚥下外来の診療内容(再診)

## リハ科専門医 による診察

- ・ 検査結果の説明
- ・ 問診、視診、触診、頸部および胸部聴診
- ・ スクリーニングテスト(RSST、MWST)など

## 検査

- ・ 嚥下機能検査:VF・VE(必要時)

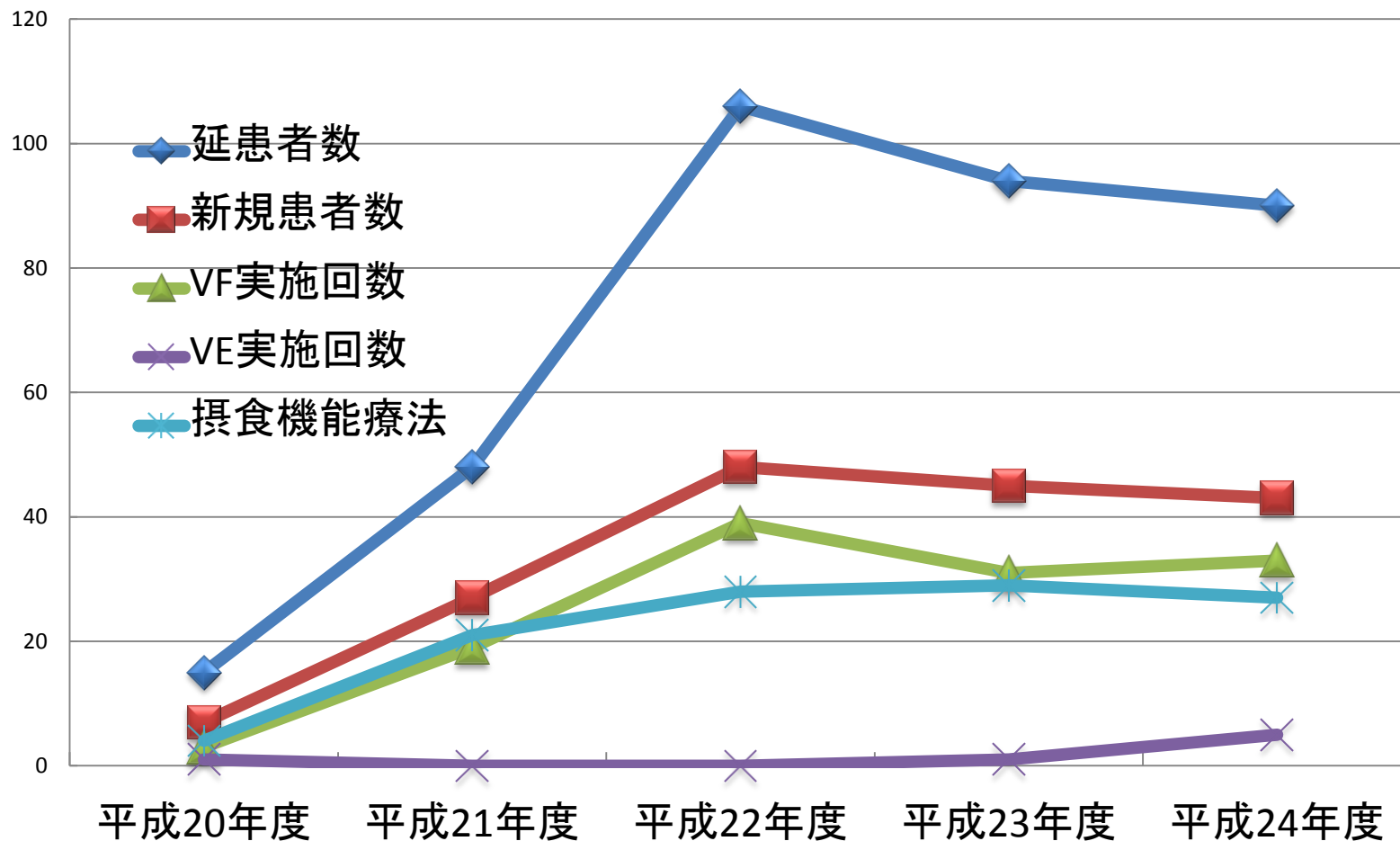
## 指導

- ・ 口腔ケア物品の選択とケア方法
- ・ 適切な食形態の選択・入手方法・調理方法
- ・ 環境調整、姿勢調整、食事介助方法
- ・ 自宅でできる簡単訓練
- ・ 食事介助や日常生活上の注意点など

# 方法

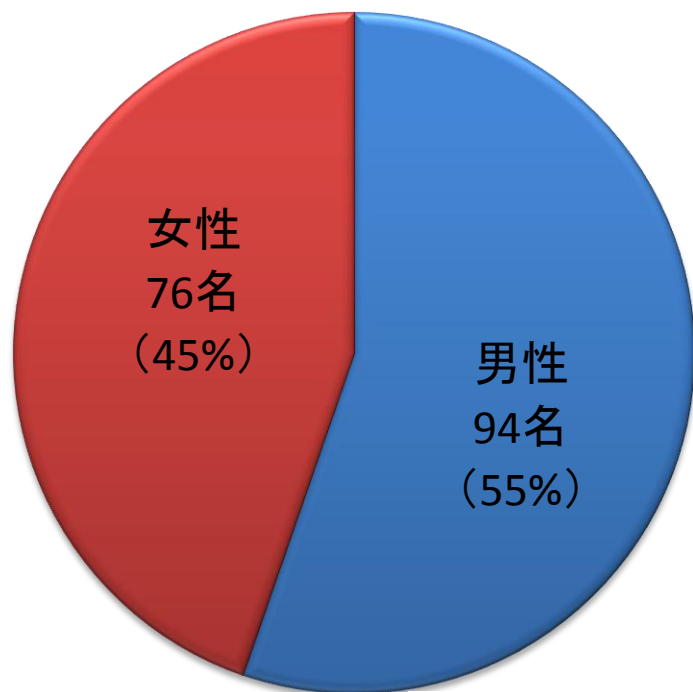
- ▶ 開設から5年間の実績を調査した。  
延患者数、新規患者数、嚥下造影実施回数、嚥下内視鏡実施回数、摂食機能療法実施回数、新規患者の属性(性別、年齢、主な疾患群、在宅か施設か)、受診目的、平均受診回数。
- ▶ 紹介元を神奈川県地図上にマッピングした。
- ▶ 代替栄養手段をもつ患者については、検討を行った。

# 摂食・嚥下外来の実績



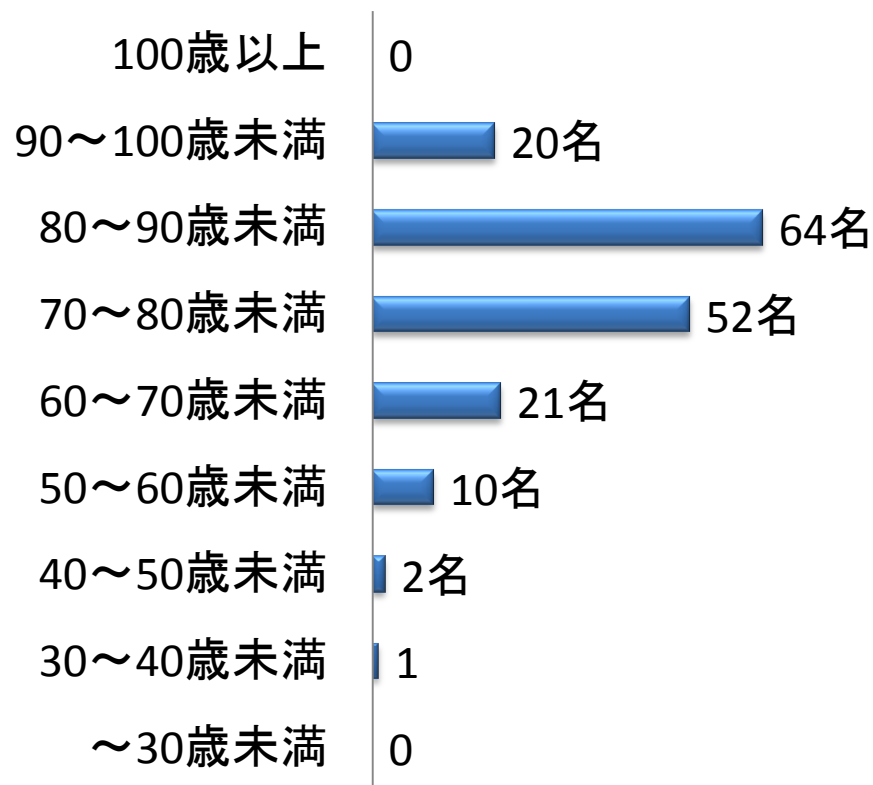
# 新規患者の属性：性別と年齢

性別

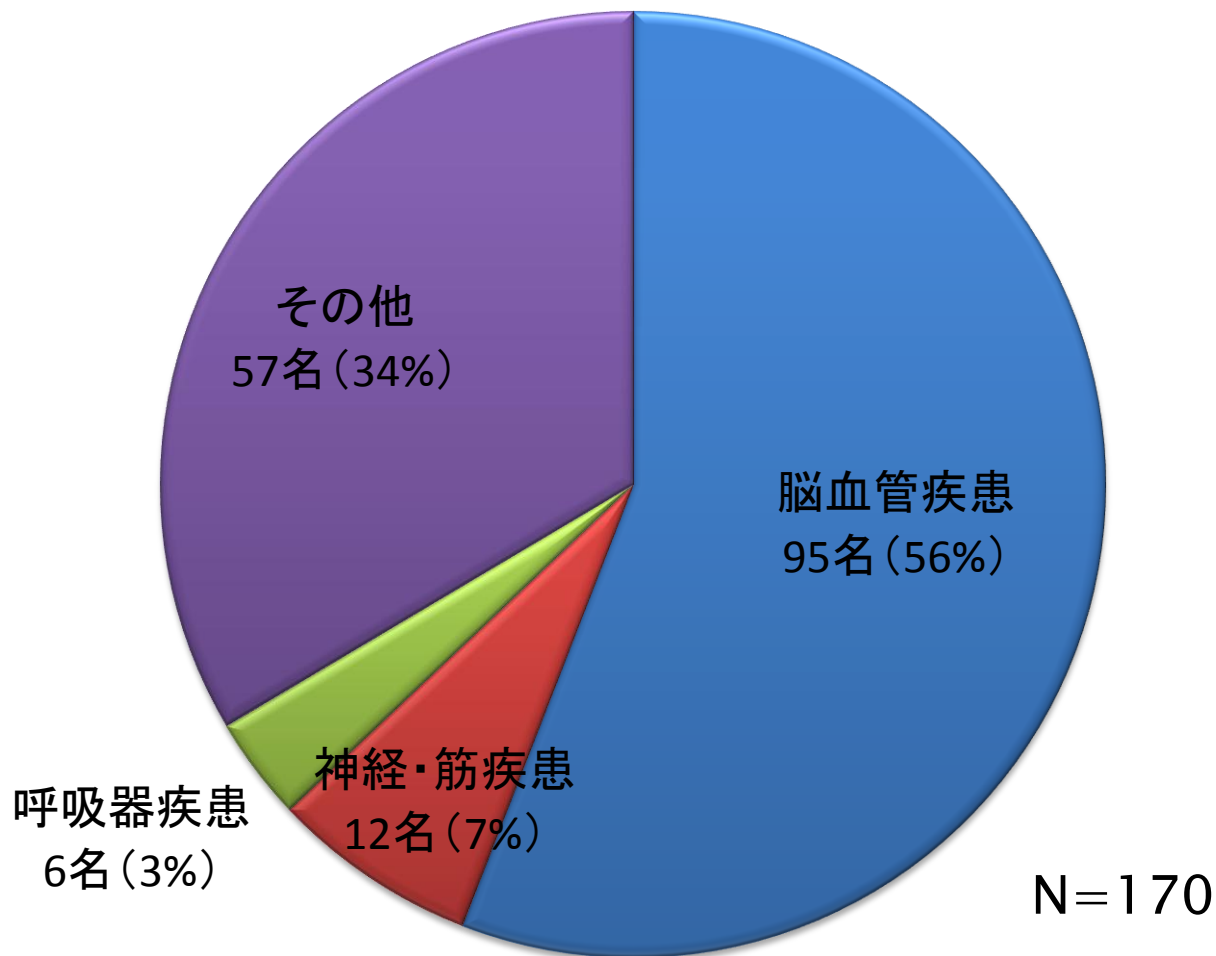


N=170

年齢

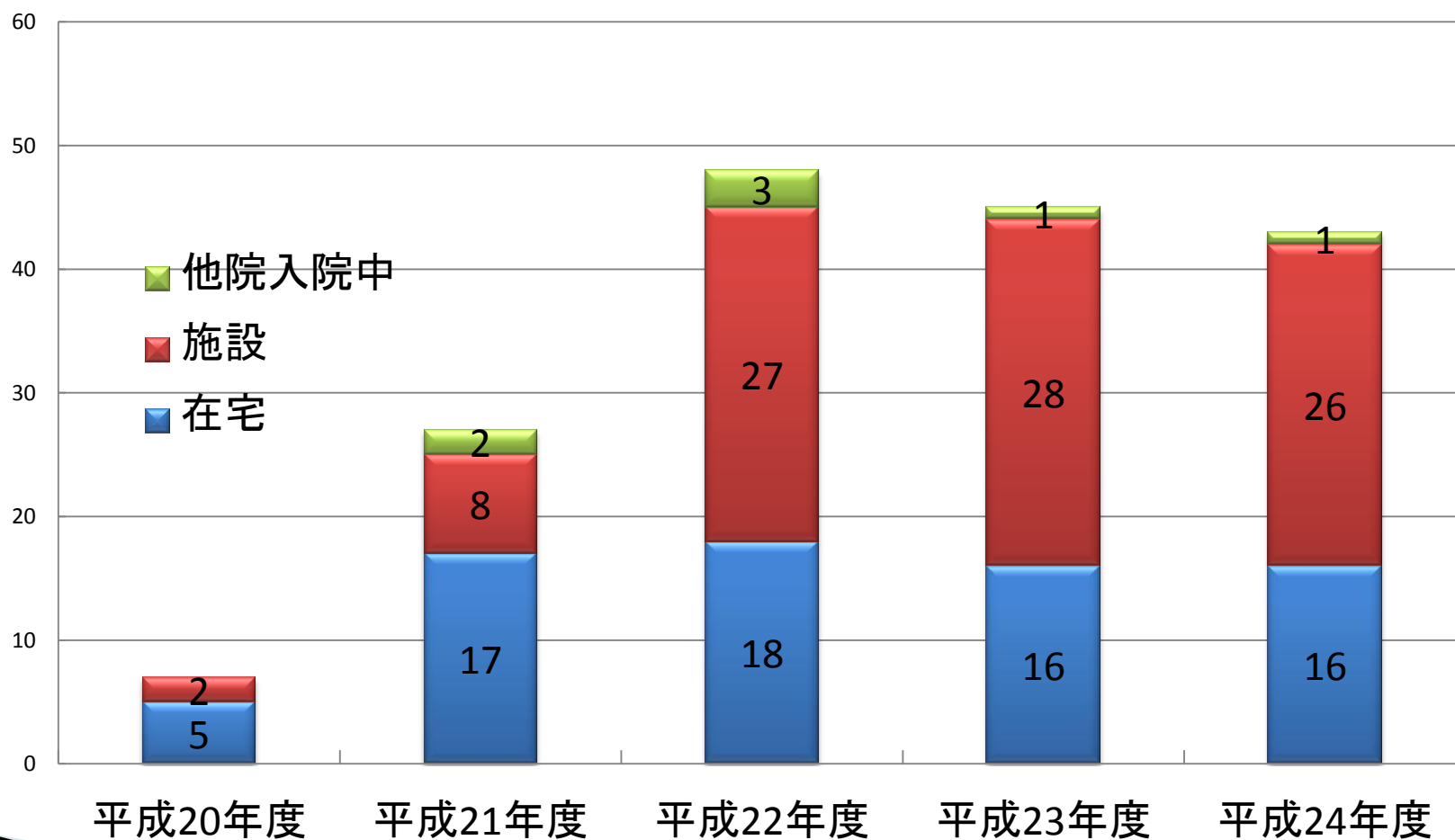


# 新規患者の属性：主な疾患群



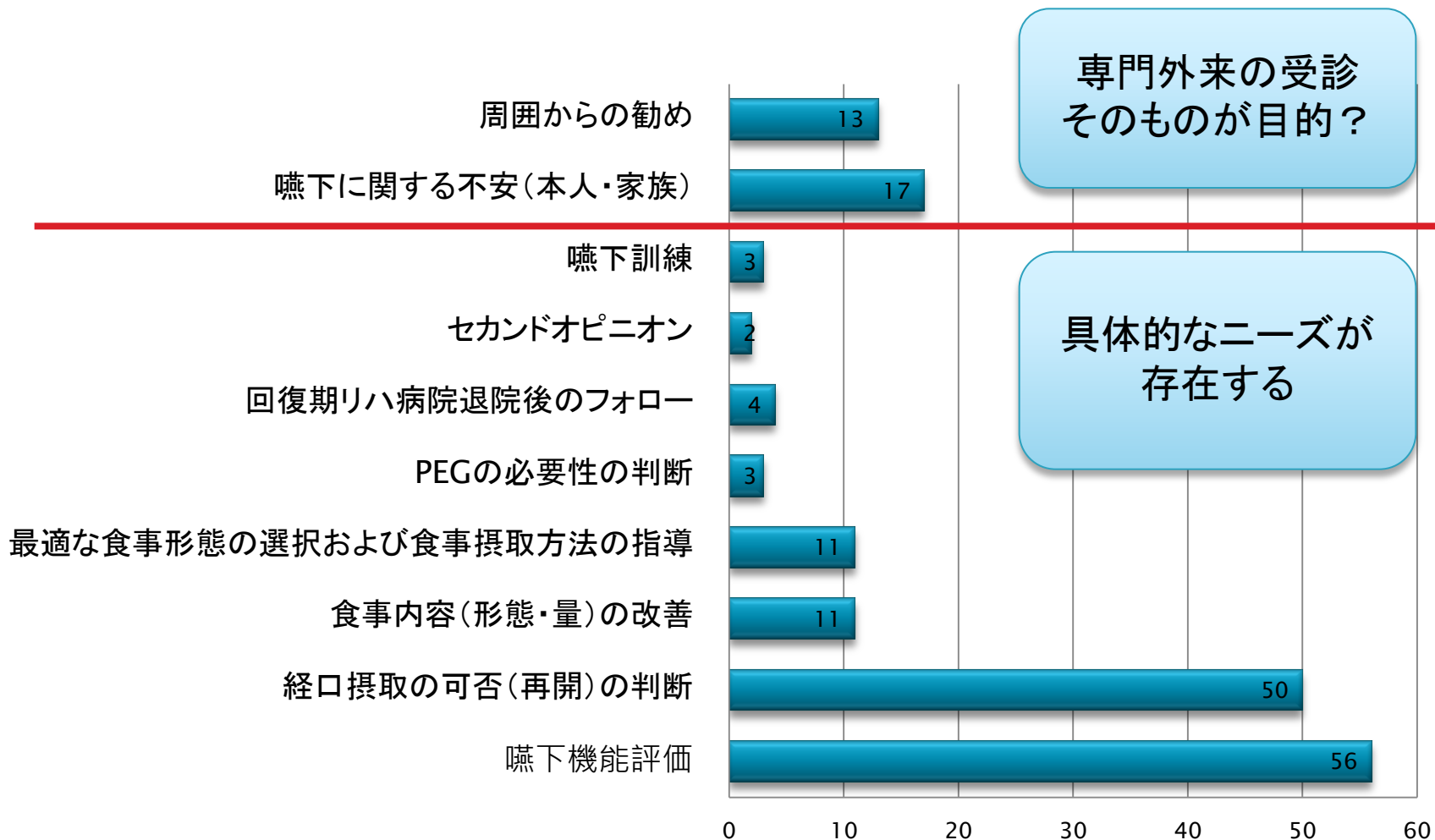


# 新規患者の属性：在宅or施設

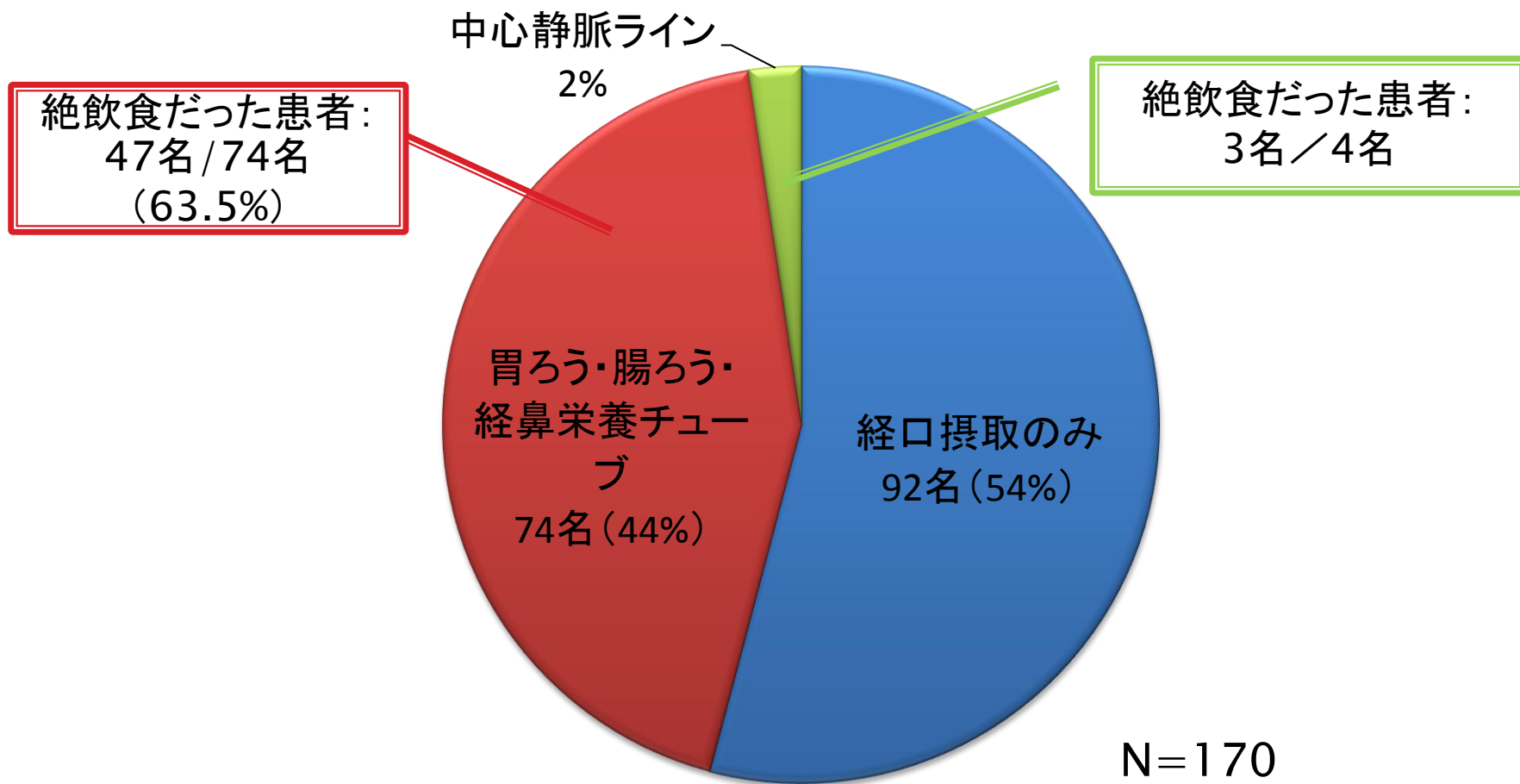




# 摂食・嚥下外来の受診目的

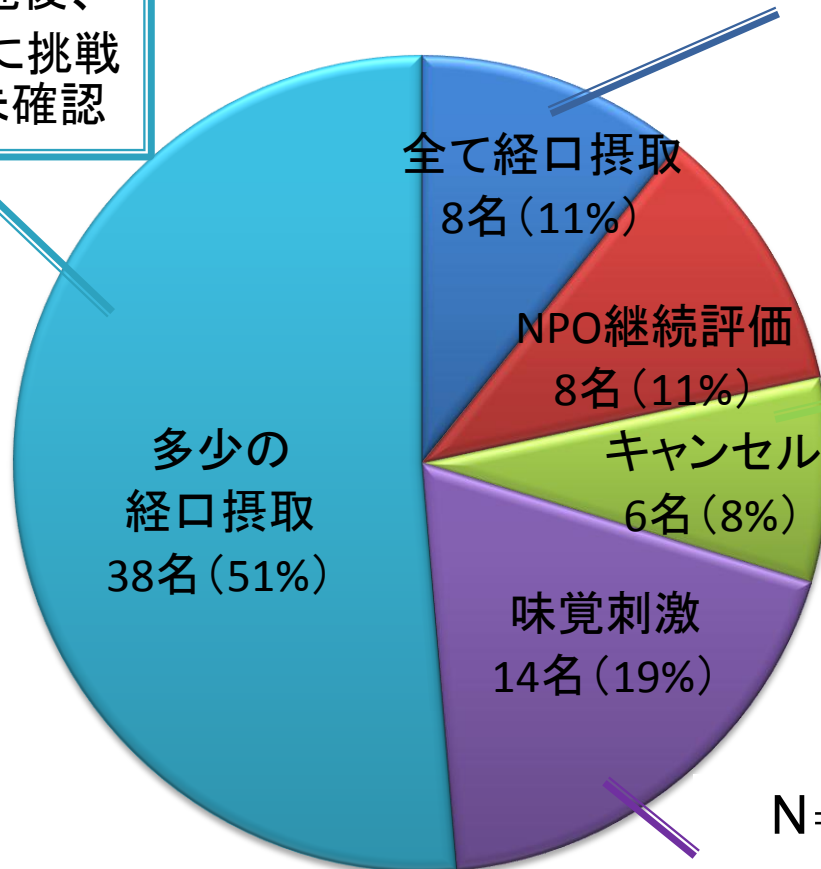


# 代替栄養手段の有無（初診時）



# 胃ろう・腸ろう・経鼻栄養チューブ

評価・指導を実施後、  
実際に経口摂取に挑戦  
したかどうかは未確認



PEG抜去: 4名  
安心のためPEG保存: 2名  
経鼻栄養チューブ抜去: 2名  
(ルート抜去は確認済み)

キャンセルの理由:

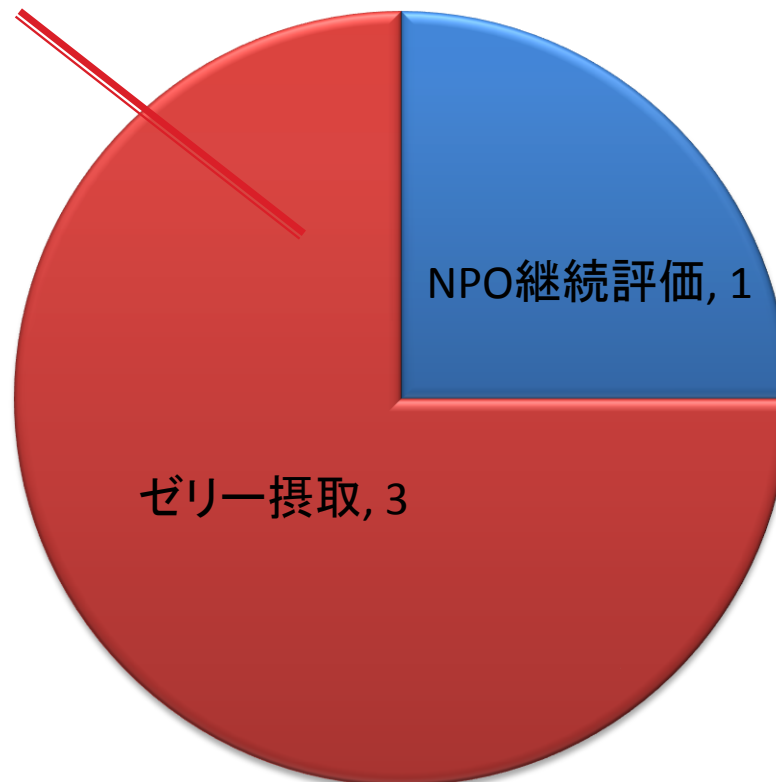
- ・嚥下機能評価待機中に患者が入院
- ・本人の拒否
- ・体調の悪化など

評価・指導を実施後、実際に味覚刺激に  
挑戦したかどうかは未確認

N=74

# 中心静脈ライン

GFOゼリー摂取  
+ 排便を確認済み



N=4

# 結語

- ▶ 新横浜リハビリテーション病院の摂食・嚥下外来は、開設当初の基本方針に沿って地域医療を後方よりサポートしている。
- ▶ 食べられるのに食べさせていない患者の発見や少数ながらも胃ろうや経鼻栄養チューブからの離脱など、一定の貢献をしてきたものと考える。
- ▶ 今後の課題は、当院での評価内容を実際に試しているかの追跡および在宅医との連携だと思われた。